

Title	石光輝子教授略歴・主要業績
Sub Title	Biographie Teruko Ishimitsu
Author	
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2016
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. ドイツ語学・文学 (Hiyoshi-Studien zur Germanistik). No.53 (2016.) ,p.131- 133
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	中山純教授 石光輝子教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10032372-20160331-0131

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

石光輝子教授 略歴・主要業績

略歴

- 1973年 大阪大学文学部文学科独文学卒業
 1976年 大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了（文学修士）
 1977年 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程中退
 1977年～1980年 大阪大学文学部美学科文部教官助手
 1979年～1981年 フライブルク大学（西ドイツ）留学
 1982年～1989年 大阪市立大学非常勤講師
 1989年 神戸大学教養部助教授
 1992年 神戸大学国際文化学部助教授
 2000年 慶應義塾大学商学部助教授
 2002年 慶應義塾大学商学部教授（現在にいたる）
 2006年～2007年 ベルリン・フンボルト大学客員研究員（塾派遣留学）
 2013年～2014年 ベルリン自由大学客員研究員

主要業績

[共著書]

- 『中欧—その変奏』 鳥影社 1998年
 『ドイツ短編小説の変容—掌編小説の諸相』 「ドイツ文学研究叢書」第6巻 ク
 ヴェレ会 1984年
 『ドイツ短編小説の展開—世紀転換期から第二次大戦末まで』 「ドイツ文学研究
 叢書」第4巻 クヴェレ会 1980年
 『ドイツ短編小説の系譜—成立期から十九世紀末まで』 「ドイツ文学研究叢書」
 第2巻 クヴェレ会 1977年

[論文]

- 「イディッシュ語と多言語共生」 『立命館言語文化研究』25巻4号 立命館大
 学国際言語文化研究所 2014年
 「カフカの齒—世紀転換期のある身体像—」 『慶應義塾大学商学部創立50周年
 日吉記念論文集』 慶應義塾大学商学部 2007年
 「写像と言葉のなかの幽霊—カフカと写真（下）—」 『慶應義塾大学日吉紀要
 ドイツ語学・文学』第42号 2006年

- 「カフカと写真—フェリーツェ・パウアー宛ての手紙を中心に—（上）」『慶應義塾大学日吉紀要 ドイツ語学・文学』第38号 2004年
- 「観察と疲労—カフカのバリ旅行—（下）」『慶應義塾大学日吉紀要 ドイツ語学・文学』第34号 2002年
- 「カフカのバリ旅行（上）」『慶應義塾大学日吉紀要 ドイツ語学・文学』第33号 2001年
- 「旅するカフカ」『ドイツ文学論集』第28号 神戸大学ドイツ文学論集刊行会 1999年
- 「世紀転換期プラハのナショナリズム」『ドイツ文学論集』第24号 神戸大学ドイツ文学論集刊行会 1995年
- 「書くことの不可能性—ヴォルフガング・ヒルデスハイマーの沈黙と死」『近代』第77号 神戸大学「近代」発行会 1995年
- 「プラハとウィーンのあいだ—カフカとミレナのあいだ」『ドイツ文学論集』第23号 神戸大学ドイツ文学論集刊行会 1994年
- 「カフカの階段—八折判ノートにおけるバベルの塔のトポス—」『ドイツ文学論集』第21号 神戸大学ドイツ文学論集刊行会 1992年
- 「言葉の連鎖としてのカフカの八折判ノート（1）」『ドイツ文学論集』第19号 神戸大学ドイツ語教室 1990年
- 「現実の真贋—ヒルデスハイマーの『マーボット』について—」『ドイツ文学』第82号 日本独文学会 1989年
- 「過去の影—フェルディナント・フォン・ザールの短編小説について—」『オーストリア文学』第4号 オーストリア文学研究会 1988年
- 「ある内的闘いの記述—カフカの『判決』—」『独文学報』第1号 大阪大学「独文学報」刊行会 1985年
- 「父の空間—中上健次の「父」とカフカの「父」—」『クヴェレ』37号 クヴェレ会 1984年
- 「カフカにおける死について—食物モチーフを手がかりとして」『ドイツ文学論叢』第24号 阪神ドイツ文学会 1982年
- 「禁欲の芸術家 カフカ『ある犬の探求』論」『待兼山論叢』12号, 美学編 大阪大学文学会 1978年

[翻訳]

- フリードリヒ・キットラー『グラモフォン・フィルム・タイプライター』共訳 筑摩書房 1999年（改訂版：ちくま学芸文庫 2006年）[2001年度レッシング・ドイツ連邦共和国翻訳賞受賞]

ベーター・ハントケ「絵のなかの絵」『ユリイカ』9月号 青土社 1996年
デトレフ・ベルテルセン『フロイト家の日常生活』共訳 平凡社 1991年
『ドイツ・ロマン派全集 第十八巻 郵便馬車にゆられて 旅行記集』共訳
国書刊行会 1989年

[その他]

書評：三谷研爾著『境界としてのテキスト—カフカ・物語・言説』 鳥影社刊
『独文学報』第30号 大阪大学「独文学報」刊行会 2014年
書評：ベーター＝アンドレ・アルト著／瀬川裕司訳『カフカと映画』 白水社刊
『週刊読書人』第2990号 株式会社読書人 2013年
書評：川島隆著『カフカの〈中国〉と同時代言説—黄禍・ユダヤ人・男性同
盟』彩流社刊 『ドイツ文学』第144号 日本独文学会 2012年
書評：ミレナ・イエセンズカー著／松下たえ子訳『ミレナ 記事と手紙 カフ
カから遠く離れて』 みすず書房刊 『週刊読書人』第2822号 株式会社読
書人 2010年
鈴木隆夫編 『オーストリア文学小百科』 共著 水声社 2004年
高橋康也他編 『世界文学101物語』 共著 新書館 1996年
「〈大学で始まったドイツ語教育の変化〉 神戸大学におけるドイツ語教育」『ド
イツ研究』16号 日本ドイツ学会 1993年
教科書：『ゴレム伝説』 編・註・解説 共著 白水社 1986年